福岡・元岡（もとおか）・桑原（くわばら）遺跡群

1　所在地　福岡市西区大字桑原

2　調査期間　第一八次調査　一九九九年（平11）一〇月～二〇〇二年二月

3　発掘機関　福岡市教育委員会

4　調査担当者　吉留秀敏

5　遺跡の種類　水田跡・製鉄跡

6　遺跡の年代　古墳時代、七世紀後半～一三世紀

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

元岡遺跡群は、福岡市の西端、糸島半島の山間部に所在する。付近は花崗岩基盤の標高一〇〇m以下の丘陵地帯で、小河川により樹枝状に浸食されている。一八次地点は、七次地点（「壬辰年」木簡出土。本誌第二一号）や一五次地点（解除〈祓〉木簡出土。本誌第二二号）と、二〇次地点（「大宝元年」木簡など出土。本誌第二三号）のほぼ中間にあたる。一五・二〇次地点と同じ大原川沿いで、付近で東西に流れる大原川から南に開析された幅約一〇〇m奥行き約三〇〇mの谷筋である。調査はこの谷の中央から東側にかけての一六八〇〇㎡を対象とした。標高は約一二～四〇mである。

（前　原）

調査の結果、五面の遺構を確認した。第一面は中世末から近世、第二面は古代末から中世前期、第三面は古代後期（主に奈良時代）、第四面は古墳時代後期から古代前期（飛鳥時代）、第五面は弥生時代以前である。第三・四面では谷奥の斜面に大規模な造成を伴い倉庫・建物群・製鉄施設などが造られる。また谷底には湧水点付近に石敷き井戸や陸橋、池状の貯水遺構などが造られる。池状遺構から須恵器・土師器などの土器類、金属製品、木製品が多数出土した。「官」「広刀自」の墨書がある須恵器や、鞍の部材「居木」などもある。

木簡は谷底に造られた貯水遺構から出土した。第四面下部の黒色有機質土からの出土である。本遺構では他に、墨痕のみの切片二点と、墨痕のない荷札状に加工された板材が出土している。

8　木簡の釈文・内容

(1)　□　□〈□〉」　(79)×24×3　039

一端に切り込みをもち、文字の方向からいうと上部を欠損してい

る。離れた二カ所に文字が認められるが、釈読できない。文字の一部が端部の切り込みに切られており、荷札状に二次利用される前の墨書とも考えられる。

9　関係文献

福岡市教育委員会『九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調査概報二―元岡・桑原遺跡群発掘調査―』（福岡市埋蔵文化財調査報告書七四三、二〇〇三年）

（吉留秀敏）

博多研究会編集・発行

『博多研究会誌一一号

―博多遺跡群出土墨書資料集成二』の刊行

中世の貿易都市・博多から出土した墨書資料の資料集成が、『博多研究会誌一一号』として刊行された。

本書は、一九九六年に刊行された同会編『博多遺跡群出土墨書資料集成一』の続編で、一九九五年から二〇〇一年に刊行された四四冊の報告書を対象に、墨書土器・刻書土器と木簡総計九四二点（うち、木簡は博多一〇〇次・一〇三次・一二〇次出土の四点）の一覧表と一点ごとの実測図を収録したものである。

加えて同書には、菅波正人「福岡市出土の古代墨書土器集成」が収められており、市内二二遺跡から出土した二六〇点の墨書土器が、一覧表と一点ごとの実測図で簡便に検索できる。

B五版・一四四頁・二五〇〇円

問い合わせ先

福岡市教育委員会鴻臚館跡調査事務所　大庭康時氏宛

電話・FAX　〇九二―七二一―〇二八二